

# 県 外 派 遣 報 告 書

栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	第71回国民体育大会関東ブロック大会	開催地	山梨県富士吉田市
報告者名 (所属連盟)	梶 崇司・武井晋平 (クラブ)		派遣期間 平成28年8月19日 ~ 21日
参加者 (所属都県)	(本部)渡邊 整・稲葉 威 (指名)山崎人志・北島寛臣	(茨城)武藤陽子・一色 渉 (群馬)菊地真吾・佐藤弘之 (埼玉)竹澤友美・眞栄喜 工 (千葉)三好啓太・坂田 愛	(東京)遠藤大輔・和嶋陽一 (栃木)梶 崇司・武井晋平 (地元)山梨県内審判員  (敬称略)

## 【審判会議内容】

### ・審判長挨拶(渡邊整審判長)

- ・公正・公平にゲームを進めること。周囲の声に惑わされてはいけない。
- ・S級を目指すという強い意識を持つ。そのためには、プレイの考え方、技術の理解が必要。
- ・笛を吹くということは、正しい方向にゲームを進めるということ。正しい技術や選手・ベンチを理解し、正しく見極め、判断⇒判定しなければならない。
- ・4原則が目的とっていないか。そこにいて何を見るのか、どう判断・判定するのが重要。  
良い角度・視野でプレイを捉える努力をしなければならない。「ずれる」「踏み込む」といった動きが自然にできているか。動きながらの判定、ブラインドからの判定は行ってはならない。なぜそうってしまったのかをよく考える。
- ・感性を磨く。目・耳から入ってくる情報をインプットしアウトプットする。

### ・審判会議講義

講師:指名審判員 北島寛臣氏                    テーマ「S級の立場から」

- ・S級になると、毎日、毎試合 緊張とプレッシャーがある。⇒メンタルの強さの必要性
- ・目標設定の大切さ ⇒ 自分がいつまでに成し遂げたいか。S級になるための目標設定が大切。  
覚悟を決めてやると徹底するようになる(具体的な行動の変化)。  
「変化」しなければ、何も変わらない。自分の目標を明確にする。

講師:指名審判員 山崎人志氏                    テーマ「3パーソンメカニクスについて」

- ・新しい用語が使われるようになってきたこと、マニュアルに変化がある。  
「stay & see」、「primary area」1st、2nd、3rd、「dual area」2人の視野が重なるエリア  
「RSBQ」リズム、スピード、バランス、クイックネス ⇒ このどれかが崩れたときに、ファウルが成立する。  
「Referee defence」ディフェンスプレイヤーを中心に見る
- ・動きについて  
トレイル⇒リード…4秒で移動する。トレイルからリードに向かうスタートの第1歩を力強く。  
リードに入ったらリングのトップが見える位置にセットアップする。  
「close down」をして、次のプレイに備える。リードは逆サイドへ移動する場合、走らずに“早足”が望ましい。  
「NON working area」ボードの真後ろでは立ち止まらない。
- ・その他  
タイムアウトの際には、試合を再開する場所へボールを置いておく。  
TOへのコールは、オフィシャルがしっかりと見えれば遠くても良い。コール時には“声”を出す。

## 【A級研修会】

日本協会講師:関口知之氏

テーマ「ゲームマネジメント」について

- ・自分が思う、うまい審判とは…突発的に何か起きたときに正しい処置ができる審判
- ・映像を見ながら  
突発的に起きた事に、処置の順番を間違えてはいけない。“後”、“先”を間違えずに順序良く処置をする。
- ・3人の協力  
プレゲームカンファレンスが大切である。3人のお互いの基準を、このカンファレンス基準を合せておく。  
また、場面での具体的な約束事を話合っておくことが大切。
- ・相手の目の前(プライマリー)を尊重しなければならない。
- ・バスケットは文化であり、今後も様々に変化していく。それに、すぐに対応していかなければならない。  
様々な情報を得ることが大切。

# 県外派遣報告書

栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	第71回国民体育大会関東ブロック大会	開催地	山梨県富士吉田市
報告者名 (所属連盟)	梶 崇司・武井晋平 (クラブ)	派遣期間	平成28年8月19日 ~ 21日
<p>日本協会講師:山田 巧氏          テーマ「S級になるには」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい情報をどんどん手に入れていく。⇒情報を入れられないと、TOPのゲームが吹けない。</li> <li>・A級の義務 ⇒ 1. S級を目指すこと、2. 地元の若手審判を育成する、3. バスケの発展を担う</li> <li>・S級と吹くに当たって ⇒相手がどんな笛を吹くかを考えてはダメ。自分の笛を出す。</li> <li>・レフリーとしての見解をきちんと説明責任を果たせるかが大切(選手・コーチの質問に手短に対応できる)。</li> <li>・審判力を高めるために              レフリーは、ゲームについていくのではなく、ゲームの方向付けをすることが役割。              「吹いた瞬間」、「吹かなかった瞬間」をよく分析することが大切</li> <li>・メンタル              コーチ、プレイヤー、観客の心理・反応を理解する。              コート上でいかに力を出せるか。1Qで、“強く”、“鋭く”笛を吹く。</li> <li>・表現力              全てを見られているという意識を常に持つ(立ち姿、走り方、笛の吹き方、TOコール、髪形やズボンの長さ)。</li> <li>・環境              S級への情熱を常に持つ。日々の仕事にも役立つはず。職場・家庭の理解も必須。</li> </ul>			
<p>【感想・県内審判員へ伝えたいこと】          A級になって以降、本大会には毎年参加させて頂いていますが、今回は初めて2日目主審の割当てを頂いたという点で自分にとって大きな意味を持つ大会となりました。          これまでも、副審でも常に主審のつもりでゲームに臨んできましたが、いざ主審としてコートに立つと、これまでにない視点でゲームを感じ、目配り気配りが必要だということを肌で感じました。同時に、これまで自分が副審だった時に主審の方に頼っていたり、迷惑をかけていたんだということも痛感しました。          今回の割当てに感謝するとともに、S級取得に向けた力をつけるべく、引き続き努力してまいります。          地元の方々には3日間大変お世話になりました。ありがとうございました。(梶 崇司)</p> <p>今回の大会は、国体の関東ブロック予選とA級研修会を兼ねており、4名の講師の方々からA級として大切な事、そしてS級になるための、様々なお話を聞くことができました。S級を目指していくことへの目標や、コート上で今後意識していくことなどを学ぶことができました。大会全体を通して、関東ブロックから全国へ進める1チームを決める大会とあって、プレイヤーはもちろんベンチやチーム関係者など、たくさんの人の思いを強く感じた大会でした。          担当した試合についてですが、初日はS級で今回指名の北島さんと地元山梨県の少年女子を担当させて頂きました。S級の方と吹けたことで、コート上で判定や立ち振る舞いなどを直接学ぶことができました。2日目については3パーソンで、関東の大会で初めて2日目の主審を担当させて頂きました。主審としての役割やこの試合を任せられた責任はもちろん、試合の判定や3パーソンのメカニクスなど、非常に刺激を受けた大会となりました。          今回の派遣に際しまして、渡邊審判長をはじめ、県内の皆様のご配慮、ご協力に感謝いたします。また、地元丸山審判長はじめ山梨県の皆様には3日間大変お世話になりました。心より感謝を申し上げます。(武井晋平)</p>			

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日：平成28年8月20日

審判員名	梶 崇司	相手審判	(主)副) 遠藤 大輔 氏 (東京)
カード	少年男子	山梨 対 群馬	
◇ ミーティングの内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には問題なくゲームが進んでいた。吹くべきものをきちんと取り上げていた。</li> <li>・ポイントとなるプレイヤー、マッチアップについては、早めに目をつけて判断していくことが必要。</li> </ul>			
《審判主任》眞榮喜工氏 《講師》関口知之氏			

割当日：平成28年8月21日

審判員名	梶 崇司	相手審判	U1：坂田愛氏(千葉)、U2：菅野秀樹氏(山梨)
カード	成年女子	埼玉 対 東京	
◇ ミーティングの内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3パーソンの良いところを生かし切れていない。</li> <li>2パーソンの時よりも見るべきエリアが狭くて済むはず。それぞれが自分のエリアについて責任を持つこと。</li> <li>・センターから積極的に判定しても良いケースがあったのではないか。</li> <li>・スクリーンプレイに対する理解と判断が必要。コールすべきものがあった。</li> <li>・ベンチへの対応について、なぜコーチがアピールをしているのかを考えた対応を行う必要がある。</li> <li>理解していれば対応も変わったはず。</li> </ul>			
《審判主任》菊地真吾氏 《講師》関口知之氏			

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成 28年 8月 20日

審判員名	武井 晋平	相手審判	(主)副) 北島寛臣氏	指名 埼玉
カード	少年女子	山梨	対	茨城
◇ ミーティングの内容				
・全体的に、悪くはなかった。				
・長身の選手同士のボールをもらおうとするポスの争いが、気になった。				
リバウンドの際に、ひじで上から抑えつけているようなケースがあったので、早めに目を当て判定しなくてはならないと思う。				
・トレイルから、もっと積極的な判定をした方が良かった。相手が鳴っていたが、一緒に鳴っても良かったものがあった。				
・トレイルからリードから見づらいリバウンドファウルを少し遠くから吹いたが、もっと近くで鳴らせると良かった。				
・ショットするプレイヤーに対しての手で押すような手の扱いについて気になった。				
・手の使い方について、判定してもよかったものがあった。				
《審判主任》佐田幸一 氏 《講師》山田巧氏				

割当日:平成 28年 8月 21日

審判員名	武井 晋平	相手審判	U1:眞榮喜工氏(埼玉)、U2:手塚清孝氏(山梨)	
カード	少年男子	千葉	対	東京
◇ ミーティングの内容				
・初めて関東の二日目です3パーソンの主審を担当させていただきました。				
・ボールが入ったところのすぐの手の触れ合いについて、もっと判定してほしい。				
・ブロックショットの確認。				
・アウトオブバウンズの確認。クルーを含めての協力。				
・外からのドライブの時に、トレイル、センターが対応していない。もっと積極的に確認をしたほうがよい。				
・主審として、今後任されることが多くなるだろうから、もっとリードして引っ張っていくことが必要。				
・判定したものについては、違和感はないが、吹かなかったものについて、もっと笛を入れてよかったのでは。				
・スクリーンプレイについて、判定してほしいものがあった。ひじを張っているもの。				
・全体的には、頑張っていた。判定しようという気持ちが伝わってきた。				
《審判主任》山崎人志氏 《講師》関口知之氏				

※この記録表は、各自で記入して審判委員長に提出して下さい。